

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年7月9日（金） NO13 文責 木下 文秋

人はなぜ働くのか

神奈川県に日本理化学工業という会社があります。この会社は学校で使用するチョークを生産しており、その生産量は全国トップクラスです。話は昭和35年のことです。会社の近くにある特別支援学校の校長先生が「お宅の会社で一人でもいいからうちの生徒を雇ってもらえませんか」とお願いされましたが断り続けていたそうです。「じゃあ一日だけでもいいから働くことを経験させてください。それだけでも経験させてあげたい」とせがまれ、2週間女子生徒に仕事をさせたところ、彼女達の一生懸命さに心を打たれた社員から「是非彼女達を雇ってほしい」と申し出がありました。そこで、2名を社員として採用したのですが、時々ミスをして「もう帰ってもいいから」というと「帰らない」と言って泣き出してしまう。このことを近くのお寺の住職さんに「彼女達は遅刻もせず、毎日一生懸命仕事をする。ミスをして帰りなさいと言うと泣いて嫌がる。施設で大事に面倒を見てもらう方が楽だと思のですが」と話すと住職からこう言われました。「人間には4つの幸せがあります。人に愛されること。人に褒められること。人の役に立つこと。人に必要とされることです。その幸せは施設では得られません。だから彼女達は頑張るのでしょう。」この会社は今では全80名の社員のうち7割を超える人が障がいのある人です。どうしてもミスは起きるのですが、そこで働く障がいのある方々は、人に必要とされる喜びや、人の役に立つ充足感に満たされているからこそ、今日も仕事ができているのだと考えます。「働くこととは？」と質問すると恐らく多くの人間は「お金を稼ぐこと」と答えると思います。私もそうです。だけど、働くことの本当の意味は「人の役に立つこと」「人から必要とされること」への喜びかもしれません。自分という存在が人の役に立ち、人から喜ばれたり、必要とされたりするならば、どんなに心が満たされるでしょう。そして、自分自身にとって損か得かの感情だけで判断するのではなく、自分の行動が、弱者や助けを求めている人にとって愛され、喜ばれることだとしたら、こんなに素晴らしいことはありません。世の中はコロナのことばかりでうんざりだけど、ちょっといい話を見つけたので、載せました。

「追記」：総合大会が無事全競技終了しました。ほっとしています。ありがとうございました。